

策定年月	令和5年4月
見直し年月	令和5年9月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：滋賀県豊郷町

（作成主体：豊郷町農業再生協議会）

中心となる農業者：あめふりのファーム  
楽農ファーム吉田

## 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

豊郷町は、琵琶湖の東部に広がる湖東平野の中央に位置する平坦な地域で、南部には宇曾川が東西に流れている。その立地条件を生かして水稻・麦・大豆を主体とする土地利用型農業を展開している。

近年、米価下落や消費の減少等、米をめぐる情勢が変化する中で、園芸作物の導入、飼料用米、加工用米等の生産拡大と併せて、小麦・大豆の生産をより一層拡大していく必要がある。小麦・大豆の生産拡大にあたっては、基本技術の励行とブロックローテーションによる団地化を基本に置きながら、連作障害の防止・品質向上・収量安定に繋がる生産に取り組む必要がある。

また、農家戸数の減少と担い手の高齢化が進んでいる経営基盤の現状を踏まえ、集落営農組織の強化や認定農業者の育成を図り、担い手への農地集約化を進め、作業効率の向上を目指すことが急務である。さらに小麦・大豆ともに天候に左右されることもあり、圃場によっては排水対策が不十分となっている地域もみられることも課題である。

こうしたことから農業者の所得向上に向け、地力増進、排水性の向上による湿害対策など土壌環境の改善に努め、単収の高位安定化・品質向上を図るとともに、播種前契約等に基づく生産・販売により実需者との連携強化を推進する。具体的な取り組み方針として、播種作業の前鋤作業にカルチ等の農業機械を使用し深耕を行い畑地化を図る。併せて、ドローン防除による作業の省力化や高性能コンバインの導入による面積拡大を図る。

※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。

※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 【産地】滋賀県豊郷町

	小麦※1	大豆
現状値	286kg/10a (303kg/10a)	97kg/10a※2 (165kg/10a)
目標値	350kg/10a (450kg/10a)	120kg/10a (230kg/10a)

( )内の単収については、あめふりのファームの数値

※1: 品種:小麦(ふくさやか)大豆:フクユタカ

小麦の現状値(令和4年産)

※2: 直近7か年の中庸5か年の平均値(平成28年から令和4年)

※3: 目標年は小麦が令和8年、大豆が令和7年

### 【中心となる農業者(あめふりのファーム)の出荷状況】

小麦(ふくさやか)39,839kg(全量JAへ出荷)

大豆(フクユタカ)15,223kg(全量JAへ出荷)

黒大豆4,814kg(全量██████████へ出荷)

※小麦はR4年産小麦、大豆はR4年産

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 【産地】滋賀県豊郷町

	小麦※1	大豆
現状値	面積：100ha（19.0ha） 生産量：286,000kg（55,930kg）	面積：95.15ha（17.6ha） 生産量：92,295.5kg（30,987kg）
目標値	面積：102ha（23.25ha） 生産量：357,000kg（74,400kg）	面積：96.65ha（23.62ha） 生産量：115,980kg（44,880kg）

（ ）内の面積については、楽農ファーム吉田の数値

※1: 品種:小麦(ふくさやか)大豆:ことゆたか

小麦の現状値(令和4年産)

※2: 目標年は小麦が令和8年度9年産、大豆が令和7年度

### 【中心となる農業者(楽農ファーム吉田)の出荷状況】

小麦(ふくさやか)55,930kg(全量JAへ出荷)

大豆(ことゆたか)21,820kg(全量JAへ出荷)

黒大豆9,167kg(全量██████████へ出荷)

※小麦はR4年産小麦、大豆はR4年産

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 【実需者】

小麦…

大豆…など

黒大豆…

※実需者の取扱量(現状値・目標値)は産地と同等

【集出荷業者】 東びわこ農業協同組合、JA全農しが、株式会社アグリ・イズム

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

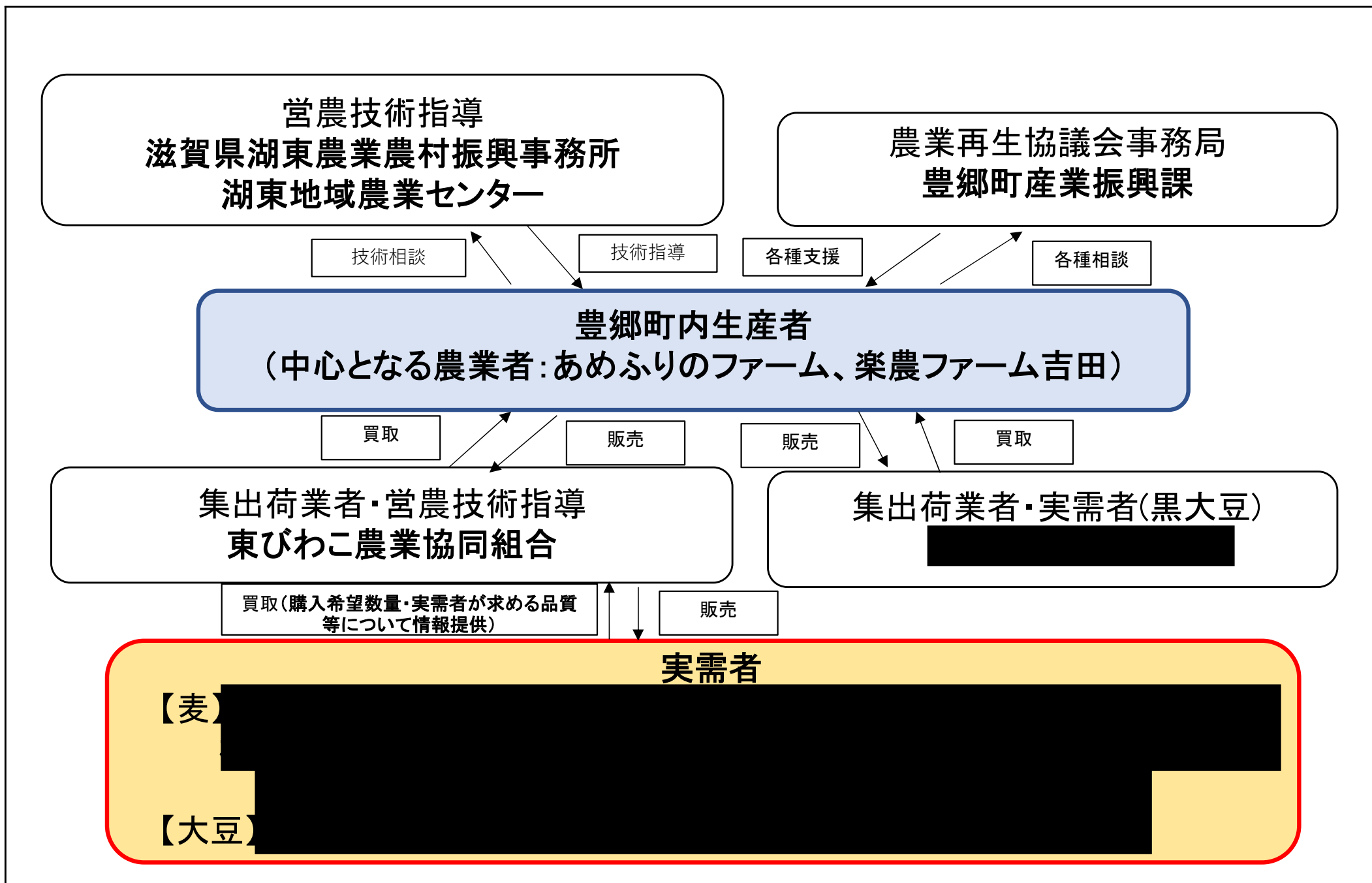
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。  
※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。